



NTT東日本グループ 地域ミライ 共創フォーラム2024 開催

「つなぐ」が進化する。
 つぎのミライへのアップデート。



開催 2024年1月24日(水)
 会場 NTT中央研修センター

基調講演

地域×テクノロジーでミライにつながる 地域循環型社会を共創

食・文化・自然など、地域ならではの魅力を活かしつつ、循環型社会を作るためには何が必要だろうか。2024年1月24日に開催された「NTT東日本グループ地域ミライ共創フォーラム2024」では、地域循環型社会の実現に向けて住民、自治体、企業がどのように共創していくべきか議論がなされた。

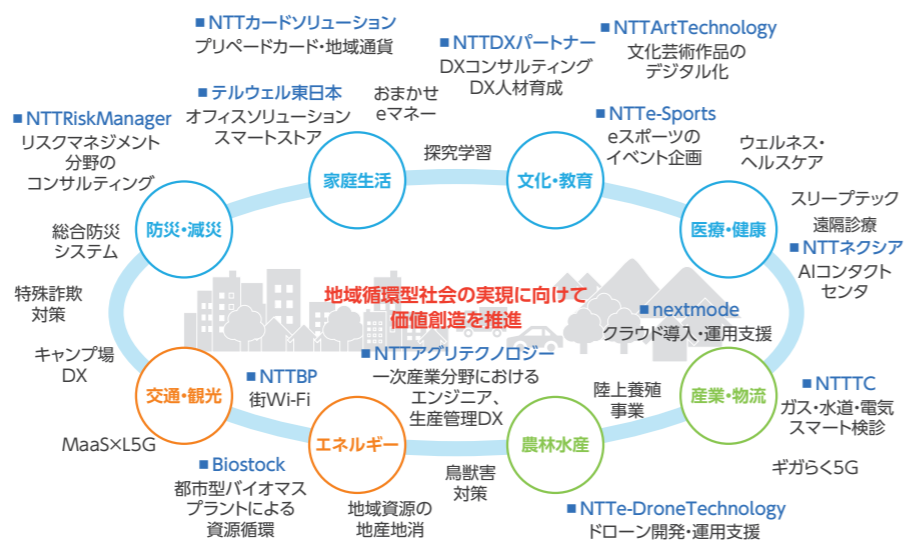
「『つなぐ』が進化する。つぎのミライへのアップデート」というテーマを掲げて開催された「NTT東日本グループ地域ミライ共創フォーラム2024」。基調講演では、まずNTT東日本の澁谷直樹氏が登壇。地域循環型社会の共創に向けた取り組みと、その将来について語った。

現在、NTT東日本グループは通信事業者の枠を超え、地域循環型社会の実現に向けた価値創造を推進している。これまでは大都市が豊かになることで地方を支えることができた。しかし今の日本は、都会を含め人口減少や高齢化が進む時代に突入しつつある。「だからこそ大都市依存から脱却し、地域ごとに自律する必要があります」と澁谷氏は、背景にある思いを示す。

では、具体的にどんな取り組みを進

域を実現する。またMaaS (Mobility as a Service) による地域交通手段の維持や、スマートストアによる店舗の省人化を図るほか、農業や製造業など深刻な人手不足に悩む現場でIoT (Internet of Things) やセンシング、ローカル5Gを活用することで、人手に頼らない地域の未来像を描いていく。さらに社会の価値創造という観点か

図●地域循環型社会の実現に向けてNTT東日本グループが提供するソリューションの一例



ら、次世代園芸の普及拡大や農業の担い手育成、場所に縛られない遠隔営農指導の普及拡大などを通じて一次産業の発展をめざす。そのほか特産品のブランド化や六次産業化により市場を拡大し、にぎわいがあふれる地域を実現していく。澁谷氏は「テクノロジーはあくまでも裏方であり、すべてを解決できるものではない」とした上で「その土地ならではの価値を上げていく取り組みを、現地で社員と一緒にやって長期的に向き合い、実践していくことに本気で取り組んでいます」と語った。

一方、社会課題の解決には最先端の技術も有効活用していく必要がある。澁谷氏は、NTT東日本が研究開発を進めている次世代通信網「IOWN」をはじめとした最先端の研究についても触れ、「地域循環型社会を支えるためのテクノロジーについては、ぜひ私たちに信頼してお任せいただきたい」とアピールした。

そして「NTT東日本は光ファイバーを99.8%の世帯に届けた世界最先端の情報スーパーハイウェイ、地域を支える5000人のデジタル人材と1万1000人の通信エンジニア、さらに400人のまちづくりコンサルタントや、3000人の地域コンサルタントといった地域密着のまちづくりエキスパートの総力を結集し、新しいミライづくりをトータルサポートしていきます」と宣言した。

地域を中心とした 自律協生への取り組み

続いて、澁谷氏と地方創生に詳しい2人のパネリストとのパネルディスカッションが行われた。1人目のパネリストは、日本総合研究所創発戦略センター エクスパートの井上岳一氏だ。日本総研は2022年11月に武蔵野美術大学と共同研究拠点「自律協生スタジ



【講演者】
 澁谷 直樹氏
 NTT東日本
 代表取締役社長 社長執行役員



【パネリスト】
 井上 岳一氏
 株式会社日本総合研究所
 創発戦略センター エクスパート



【パネリスト】
 朝比奈 一郎氏
 青山社中株式会社
 筆頭代表 CEO

オ」を開発。井上氏は武蔵野美術大学の先生、学生たちとともに各地で研究・実践活動を行っている。その一例として、この一年半通い続けてきた北海道森町での取り組みが紹介された。

一次産業が盛んな森町だが、農・林・漁業は縦割りで、相互の関係がなかった。そこで一次生産者たちに声をかけ、毎月、持ち寄りのバーベキューを開催。その中で、締め方にこだわって出荷しても差別化ができないという漁業者の悩みを聞いた林業側が、道南スギでブランドタグを制作。タグを付けた魚は函館市場で一番の高値を付けるようになった。「本当に小さなことですが、人のつながりを作るだけでこうした成功体験が生まれました」と井上氏。さらに「都市側の人々も含めさまざまなスキルを持つ人々をつなげ、自治体の政策にもコミットできるような集団を作ること、子どもたちを含め若い人たちが育ち、地域から価値が創造される仕組みづくりをめざします」と訴えた。

“経済活性化”が 地域活性化の最大の鍵

2人目のパネリストは、起業家や政治家など若手リーダー育成にも注力している青山社中の朝比奈一郎氏だ。朝比奈氏は、地域活性化を実現していく上での特に重要な鍵として「経済活性化」を挙げた。「昔のように国や東京に頼れない状況になりつつあり、地域が

総がかりで取り組まなければならない課題となっています」と語る。

朝比奈氏がアドバイザーを務めている栃木県那須塩原市では牛乳、新潟県三条市では鍛冶技術を活かした経済活性化に注力している。「日本の地域にはいろいろな資源が埋まっており、これらを活かしていくことが経済活性化において大切です」と強調する。また、もう1つのポイントとして井上氏も挙げていた「つながり」について「パンデミックのリスクなどを回避するためではなく、Well-Beingの向上などをめざし、地域と積極的に関わる『テレワーク・ワーケーション2.0』の時代が到来しました」と言及した。

こうした意見を受け、澁谷氏は「テクノロジー—辺陲では社会は変わらない」と述べた上で「地域をどうしていくかというのは、やりがいもありやらない課題でもあります。さまざまな人々が多様な視点を持ち寄り、現場でデザインしながら泥まみれになって作り上げていくのが醍醐味であり、そうした流れの中で地域の課題に長期的な視点で向き合える人材が育っていくと、地域活性化のうねりが生まれるのだと思います」とまとめた。

お問い合わせ
NTT東日本
 URL ● <https://business.ntt-east.co.jp/event/forum2024/>
 講演のアーカイブ動画を配信中(2024/3/29まで)

